

にっぽんの宝物とは

地方にはいい物がある。ただ世の中の変化にあわせて、商品そのものや売り方を変えていく必要がある。事業者、自治体らと力をあわせ、セミナー、グランプリ等のプロセスを通して、無名の「原石」を全国、世界レベルのヒット商品に育てるプロジェクト。

Active Learning

① 能動的な「ヒト」が育つ

人材育成のプロが設計したセミナーで、能動的に向上を目指す意識を醸成



Collaboration

② 新しい「モノ」が生まれる

異分野の事業者が対話する機会を提供。世の中の変化にあった新商品が絶出。



Grand Prix

③ 選ばれた「モノ」が売れる

大会で賞をとったものが売れる仕組みを構築。有名店舗、ECサイトで絶好調！



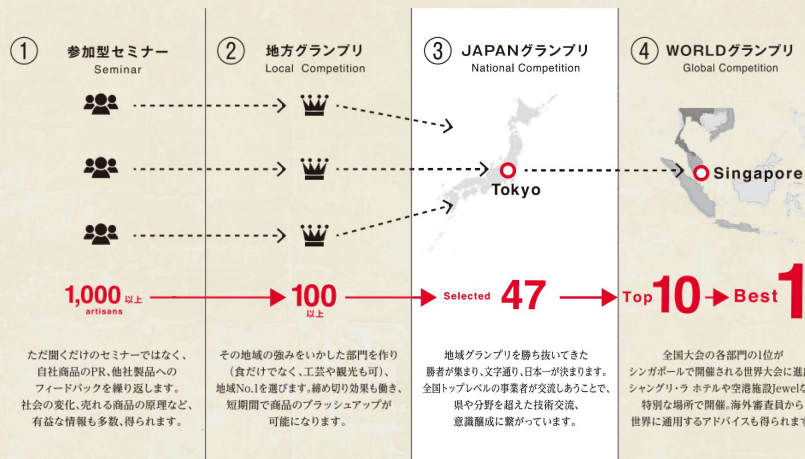
No Border Community

④ 「ツナガリ」が広がる

事業者同士が繋がり、地域の連携が強化。県、国を超えたNo Borderコミュニティへ。



商品と事業者が成長する「4つの階段」



奈良県の宝物グランプリ主催者メッセージ

奈良県奥大和移住・交流推進室長 丸岡 嘉人

「奈良県の宝物グランプリ」が開催できましたことを心よりお礼申し上げます。

「奈良県の宝物」は奈良県南部・東部地域19市町村(奥大和)の事業者様の新規事業開発および販路拡大を促進するため昨年より開催しております。

昨年は奈良県として初めての開催に関わらず、多くの事業者様からのご賛同を得られ、セミナーおよびグランプリにご参加いただきました。セミナーを通じて、学びや交流の機会が得られたことで、さまざまな事業者様から新商品やコラボ商品が生まれました。

JAPANグランプリへも多くの方にご出場のいただき、奈良県代表の事業者様すべてが各部門で受賞され、2部門で部門グランプリに輝くすばらしい結果となりました。

今年も奥大和地域中のさまざまな事業者様が「奈良県の宝物」にご参加いただいております。「奈良県の宝物」で生まれた新しいつながりが、奥大和地域の活性化につながることを期待しております。



総合プロデューサー
羽根 拓也 (株)にっぽんの宝物代表 (株)アクティブラーニング代表

90年代、ハーバード大、ペンシルバニア大で教鞭をとる。94年ハーバード大より優秀指導員証書を受賞。97年、東京で株式会社アクティブラーニング(以下、AL)を設立。日本の学校に米国式教育を普及(2020年から文科省は日本の全ての学校でALを全面導入することを決定。こうした功績が認められ、羽根は日本のALのバイオニアと言われている~Wikipediaより)。アカデミック支援の他、ソニー、パナソニックといった大手企業の人材育成、新規事業開発を支援。社員を能動的にし、進化する組織を作るその手法は、ビジネス界でも高い評価を受け、アジア各国の企業、政府関係機関に導入。異分野の人材を交流させ、オープンイノベーションの力で、新しいものを作るプロジェクト企画、ファンリレーションが得意。元経産省社会人基礎力委員。2020年より、文部科学省大学教育DX化推進委員。

日本の地方には優れたものが残されています。代々続く茶畑、何百年と受け継がれる工芸の技術等々。しかし、今、地方は高齢化、後継ぎ不足の問題を抱え、守り続けてきた人類の知恵が、時代の変化と共に失われようとしています。

2009年「にっぽんの宝物」プロジェクトが始まりました。1次、2次、3次産業と、異分野の事業者がチームになり、世界の動きを学びながら、互いの商品をフィードバック。結果、農家とデザイナー、漁師と最新ホテル等、これまでに

ないコラボレーションが生まれ、時代に合った商品が続々誕生。東京や海外、オンラインで大きな売上を生み出す商品が誕生しています。2019年・2020年と2年連続で本取り組みが、TV東京「ガイアの夜明け」でも取り上げられ、大きな反響を呼びました。

本プロジェクトを通して、地域に新しいつながりが生まれ、素晴らしいコミュニティが全国に広がっています。このグランプリを通して、その成果を是非、ご覧になってください。